

－ 2 0 1 5 －

平成 2 7 年度事業報告

自 平成 2 7 年 4 月 1 日

至 平成 2 8 年 3 月 3 1 日

平成 2 8 年 6 月 1 8 日

公 益 社 団 法 人

国民文化研究会

事務所 〒150-0011 東京都渋谷区東1-13-1-402
TEL 03-5468-6230 FAX 03-5468-1470

平成27年度事業報告

公益社団法人 国民文化研究会

はじめに

本会主催の「全国学生青年合宿教室」は、昭和31年8月、鹿児島県・霧島で第1回を開催して以降、本会の基幹事業として毎年欠かさずに開催して、60回目を迎えました。平成27年の合宿教室は「時代の転換期に生きる私たちは、どうあるべきか。日本は、どうあるべきか！」との合い言葉のもと、豊かな自然に囲まれた静岡県御殿場市「国立中央青少年交流の家」において、大学生・社会人及び関係者115名の参加者が集い、会内外の講師による講義・古典輪読・班別研修等によって、学問・人生・祖国のあり方を心ゆくまで語り合う真剣な研鑽が行われました。

合宿後には、会員有志によって編集された『参加者感想文集』及び合宿レポート『日本への回帰』第51集が刊行され、合宿での研鑽の様子を会員、賛助者をはじめ多くの方々にお伝えしました。また合宿参加者は合宿で出会った班員との交流を開始し、友情を深めることが出来ました。また、関東、関西、九州等の各地の学生及び社会人を交えて大学内、公私立施設、又は会員の自宅における常設の研修活動（輪読会、読書会、「短歌の会」、テーマ毎の研究会等）も自ずから活性化することとなりました。これらの活動は、それらの会に参加する者同士が、お互いに切磋琢磨し学問する場であると同時に、多数の方々を対象に伝統文化の普及や思想啓発のための講演会・懇話会の開催といった活動に繋がってきています。

一方、内政・外交・教育の各方面では益々問題が錯綜していますが、私ども会員一同は、心を新たにして、本会の目的である「日本の長い歴史の中に蓄積された祖先の足跡を学び、国民各層への伝統文化の普及に努めるとともに、国内外で活躍する有為な青年の健全な育成を推進し、もって学術・文化の振興並びに豊かな人間性の涵養に寄与する」ことに向かって、地道に邁進しておりますことをご報告いたします。

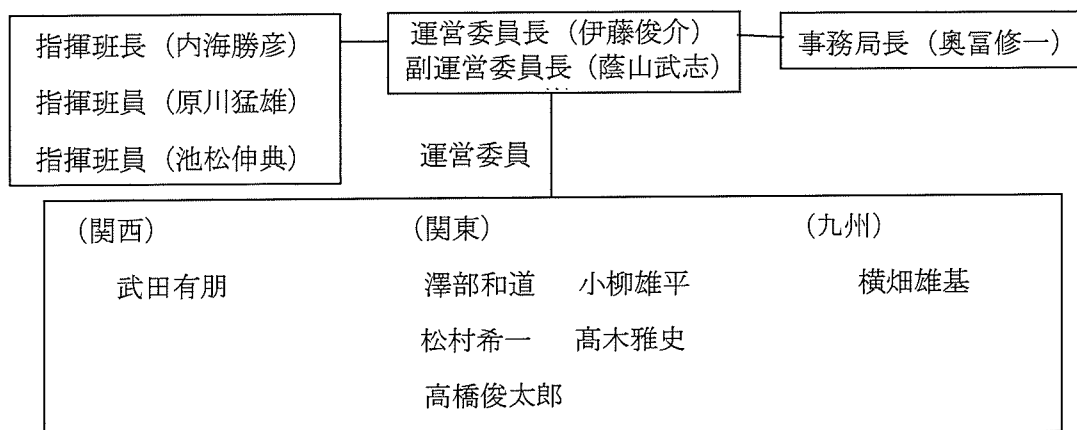
以下、当該年度の年間事業をご報告申し上げます。

I. 研修事業（公益目的事業）

1. 年次研修会としての「合宿教室」の開催

① 第60回「全国学生青年合宿教室（富士）」の開催

平成27年8月29日（土）から9月1日（火）までの3泊4日間、静岡県御殿場市「国立中央青少年交流の家」で開催いたしました第60回「全国学生青年合宿教室」は、埼玉大学名誉教授・長谷川三千子先生のご講義を中心に、本会会員による諸講義を加え、115名の参加者を得て各種行事を滞りなく遂行し、実り多い成果を上げることが出来ました。合宿運営委員を下記します。



②第60回合宿教室『参加者感想文集』の刊行

上記の「合宿教室」に参加した学生・青年が、終了間際に記した感想文をまとめた『参加者感想文集』を例年通り刊行いたしました。会員の北濱道氏を中心に、各地の会員諸氏の協力のもとに、A5版92ページにまとめ、会員島津正数氏の撮影によるスナップ写真を挿入して短期間で仕上げることができ、平成27年12月25日に1,300部を刊行しました。合宿参加者と正会員、賛助会員へは早速送付し、賛助者はじめ江湖の方々には、『日本への回帰—第51集』（平成28年3月発行）と共に送り申し上げます。各方面からお褒めのお言葉をいただき、本書が本会活動の内容を世間にお知らせするのに、またとない資料となっていることを改めて確認した次第であります。

③第60回合宿教室レポート『日本への回帰—第51集』の刊行

前記の第60回合宿教室のレポートである『日本への回帰—第51集』は、会員の森田仁士氏、高橋俊太郎氏の現地録音作業によるテープを基にして、関東地区在住の山内健生・磯貝保博両氏を中心とする会員諸氏の協力で、新書版254ページにまとめられ、平成28年3月に1,300部を刊行し、合宿参加者全員にも発送致しました。

2. 周年事業としての「創立60周年記念の集ひ」の開催

本会は昭和31年の創立から平成27年に60周年を迎えることとなりました。前年度に発足した澤部壽孫副理事長をリーダーとする実行委員会の企画により、「60周年記念の集ひ」が、平成27年11月7日（土）東京・ホテル グランドアーク半蔵門にて200名近い参加者を得て開催されました。

当日は「記念式典」の後に、以下の「記念講演」をお願いいたしました。

筑波大学名誉教授 竹本忠雄先生 「弓なして^{あか}明る この国ならむ」

東京大学名誉教授 小堀桂一郎先生 「傳統の斷絶について
—再考・大正教養派と近代主義—」

3. 常設研修会としての全国各地での活動

「合宿教室」の開催を軸とする、全国各大学での学生達による学風刷新と同信の友との研鑽活動は、各地在住の本会若手会員（社会人）の助言、指導もあって、引続き充実した歩みが見られました。各地区の学生と社会人を交えての輪読会・読書会・短歌の会・古典研究会が全国的に展開されました。

【北陸地区】

富山在住の会員岸本弘氏が主宰する輪読会、講演会が継続して開催されました。

- ・かたかごの会
- ・「古事記」を読む会

両会の主催による講演会が小矢部市文化スポーツセンターにて行われた。

- ・第6回古典セミナー「日本を考へる」 平成27年5月17日（日）
- ・第7回古典セミナー「日本を考へる」 平成27年11月15日（日）

【関東地区】

関東地区では学生・社会人の参加する研修会が継続開催され、主として東京事務所のセミナー室で開かれました。

- ・小林秀雄著『本居宣長』読書会
- ・短歌の会
- ・四土会
- ・葦牙の会
- ・調つきの会
- ・北鎌倉輪読会
- ・日本の国柄と皇室に関する研究会
- ・興風会
- ・神奈川県教育問題研究会
- ・湘南会

【関西地区】

- ・吹田輪読会

【福岡地区】

（学生を中心としたもの）

福岡地区の学生の活動は、主に福岡大学の学内サークル福大寺子屋塾の学生メンバーを中心として行われた。

- ・福大寺子屋塾輪読会

なお、福大寺子屋塾主催の学内講演会が開催された。

「第9回福大文化講演会」（講演者 廣木寧氏）（平成27年6月18日）

- ・女子大生会
- ・九大会

(社会人を中心としたもの)

- ・福岡国民文化懇話会
- ・太子会
- ・小柳陽太郎先生に学ぶ勉強会
- ・眞木和泉守研究会
- ・古典輪読会
- ・古義會
- ・皐月會
- ・鳥の郷古典素読会
- ・新山会

【熊本地区】

- ・三土会
- ・社会人の勉強会

【鹿児島地区】

- ・輪読と昭和史勉強会

4. 短歌通信の発行

わが国の伝統文化の中核をなす短歌の創作・実習の場として、全国各地から寄せられた短歌が随時「短歌通信」として澤部壽孫副理事長の編集によって継続発行されました。

5. 情報発信の基盤強化

本会のホームページ上に本会の事業活動の紹介はもとより、基幹事業である「学生青年合宿教室」及び本会主催の「国民文化講座」をはじめ各種講演会や諸行事及び各地での読書会、輪読会等の案内を掲示して、「合宿教室」の参加勧誘及び会員相互の研鑽情報の提供に成果を挙げています。最近ではホームページを通じての学生、社会人の「合宿教室」参加申込みも顕著になって参りました。

各地での研修における成果につきましても「国民同胞バックナンバー」欄に全文を公開いたしております。

平成26年1月には本会のフェイスブックを開設いたしました。会員島津正數氏を管理者として、活発な情報発信をはじめております。多数の方々に本会の活動を理解してもらうためにも有効な手立てであると考えております。

II. その他の事業

1. 会報の発行

会報（月刊『国民同胞』）は、会員の研鑽の成果を世に問うという伝統を踏襲しつつ、また新しい企画も加えながら2,000部を継続刊行し、期末で第653号目の発行となっております。なお50号毎の合本も第13巻までを頒布しております。

2. 講演会の開催

第18期(第27回)を迎えた「国民文化講座」は、平成27年6月13日（土）、靖國神社「靖國會館」に、演出家・翻訳家、明治大学教授福田逸先生をお迎えして開催されました。演題は「父、福田恆存を語る一戦後思潮の中にあって一」で、約110名が聴講しました。

3. 顕彰事業

本会恒例の慰霊祭は、平成27年9月23日（祝日）午後3時から飯田橋の「東京大神宮」において厳粛に執り行われました。ご遺族を含め44名の方にお集まりいただき、全国から献詠歌が多数寄せられました。また、この日に先立つ同年8月23日には福岡市南郊の油山中腹の泪が原に関係者約20名が集い、昭和20年8月20日、敗戦の責めを負い自刃された長島秀男海軍技術中佐と寺尾博之海軍少尉の慰霊祭が執り行われました。